

## 時の流れ

2005.11.01

各医療機関ではインフルエンザのワクチンが盛んに行われていると思います。今年は、鳥インフルエンザの報道もあり、ワクチンの接種に市民の皆さんが力が入っていることと思います。毎年この時期になるとインフルエンザのワクチンがなされているのですが、「まだ大丈夫と思っていたら、もう締め切りなんて困ってしまう。」といわれる方が多くて、こちらも困ってしまいます。どこかのコマーシャルではありませんが、「計画的に」してくださいね。

函館新聞のコラムも思い返せば平成14年の12月が書き始め。最初は持ち回りでしたが、定期的を書くのは15年12月からでした。上磯の地に開業したのは平成15年11月からでしたので、このコラムとともにクリニックも歩んできたこととなります。最初は書くのが大変と思っていましたが、最近はネタを診療の合間に見つけようとしていますので、当分大丈夫だと思います。

開業した頃に診させていただいた多くのお子さんは、成長とともに丈夫になってクリニックを訪れる回数はめっきり減りました。風邪をひくたびに「うちの子はどうしてこんなに弱い？」とため息をついていたお母さんも、何が来ても大丈夫とどっしり構え、おなかには新しい命を宿しています。かと思えば、以前勤めていた病院でかかっていたしばらくぶりであって元気な姿を見せてくれたお子さんにも会い、時の流れを感じる今日この頃です。携帯電話での診療予約、麻疹ワクチンの時のブックスタート事業などいろいろ新しいことをしてきましたが、問題がなければ来年は病後児保育を始める予定です。これからもまた新しい出会いが待っているのでしょう。新しい出会いは小児科医をリフレッシュしてくれるカンフル剤のようなものです。どんなお子さんに会えるのか、クリニックの中でどんな物語が作られていくのかほんとに楽しみです。その物語の一部をこのコラムに書き綴っていきたいと思っておりますので、読んでいる方の感想を新聞社のほうに届けてください。